

■長沢蘆雪 異色の画家。応挙門下で、師の画風からは全く逸脱するも、機知あふれる傑作描いて花形的存在となった。

ながさわろせつ
山脇東洋解剖1754＝ 丹波国篠山で、城主青山下野守に仕える藩士上杉彦右衛門(のち和左衛門)の子に生まれる。
幼時に淀藩足輕長沢氏の養子となる。

大岡忠光没・1760＝ 6歳：

・・・・・・1763＝ 9歳：

田沼意次老中1772＝18歳：
多趣味多芸に育ち、特に独楽が得意であったが、それがもとで片目を失う。

京都画壇の中心的存在円山応挙に入門、

江戸船蝦夷来 1778＝24歳：款記から、すでに応挙門にいたことが知られる「東山名所風俗図」。

・・・・・・1781＝27歳：この頃すでに京都に住む。御幸町御池下ル町に住居。
天明大飢饉始1782＝28歳：「西王母図」「牡丹孔雀図屏風」。*この年の「平安人物志」に名が載るなど、応挙の高弟として一家を成し、
蘭学階梯・1783＝29歳：この前後、正宗寺(豊橋)第一期障壁画。妙心寺の斯経の庵(海福院)の白壁に墨龍図を描く。
意知刺殺事件1784＝30歳：この年、妻が男子を流産した記録があり、すでに結婚していたことがわかる。
蝦夷初調査・1785＝31歳：この頃の作品に「呉美人図」「牛図」など。
田沼意次失脚1786＝32歳：斯経が「隻履達磨図」に賛。_応挙が親交する南紀串本の無量寺の僧から襖絵を依頼された際、師の代役を務めることになり、古座の成就寺、白浜の草堂寺を回って障壁画を制作、
寛政改革始・1787＝33歳：この年、父が淀城主である稲葉丹後守に仕えることになる。*田辺の高山寺にも滞在して、襖や屏風を描き、無量寺の「虎図」を筆頭に、「海浜奇勝図屏風」「絵替り図屏風」「月竹童子図屏風」ほか、師の画風とは異なる機知あふれる個性的表現の傑作を次々描くようになり、
初の横綱・1789＝35歳：応挙筆「風雪三顧図」を高砂岸本吉兵衛に取り次ぐ。この頃奈良へ。薬師寺の障壁画制作はこの頃か。この間、師応挙を悪戯心から辱めて、破門されたこともあったらしいが、
異学の禁・1790＝36歳：父が死去。_京都御所改築に際し、狩野派・土佐派・応挙らとともに、襖絵制作を命じられて以降、
混浴禁止・1791＝37歳：娘が夭折。源碯との双幅「朝顔雀図」。
ウキマン来日・1792＝38歳：坂本の日枝神社に絵馬「猿図絵馬」を奉納。_ユニークな印を用い始め、落款も行書から草書に変わる。
松平定信引退1793＝39歳：息子も夭折。_薬師寺に「山水図」「岩浪群鳥図」「松虎図」などの襖絵を制作。
オランダ正月・1794＝40歳：この頃、「白梅図屏風」「唐美人図」「富士越鶴図」「朧月図」。広島へ下向し、_「厳島八景図画帖」。
写楽・1795＝41歳：この年刊行の「東遊記」に挿絵。「花鳥鑑獣図巻」。この頃、第二期正宗寺(豊橋)障壁画。_応挙とともに但馬の大乗寺の障壁画「群猿図」など描く。
プロトン来航・1796＝42歳：*この間、文人墨客の元締め的存在皆川淇園と親交、東山新書画展に「墨画東披図」出品を出して、"新書画展観"(公募展のはしり)の花形的存在となり、
昌平黉始・1797＝43歳：_漱石が江戸グロテスク絵画の傑作とする絵額「山姥図」を厳島神社に奉納、
古事記伝・1798＝44歳：「大仏殿炎上図」。この頃、「幽霊図」「月に郭公図」「月夜山水図」「赤壁図屏風」。_この年の東山新書画展出品の「方寸五百羅漢図」も、その奇想ぶりが大きな話題になったが、
蝦夷地直轄始1799＝45歳：_大坂で客死した(毒殺説も)。